

令和5年度第2回朝霞市子ども・子育て支援事業計画部会

令和5年10月24日（火）開催

## 会 議 録

会 議 の 名 称	令和5年度第2回朝霞市子ども・子育て支援事業計画部会	
開 催 日 時	令和5年10月24日（火）午後2時から午後3時45分まで	
開 催 場 所	朝霞市民会館（ゆめぱれす） 5階 501会議室	
出 席 者	<p>【委員10人】  嶋崎部会長、菅原委員、川合委員、神部委員、獅子倉委員、  本田委員、安孫子委員、喜多委員、吉村委員、鶴田委員</p> <p>【事務局 8人】  保 育 課：玄順次長兼保育課長、山本課長補佐  こども未来課：高橋課長、石田課長補佐、永山係長、曾根田主任  計画策定支援事業者（株）船井総合研究所：堀内氏、銭氏</p>	
会 議 内 容	1 第3期朝霞市子ども・子育て支援事業計画の策定に係るアンケート及びヒアリングの実施について 2 第3期朝霞市子ども・子育て支援事業計画の策定に係るアンケート及びヒアリングの調査票（案）について 3 その他	
資 料	・次第 ・資料1 第3期朝霞市子ども・子育て支援事業計画の策定に係るアンケート及びヒアリングの実施について ・資料2 子育て支援についてのアンケート調査（ア～カ） ・資料3 子育て支援についてのヒアリング調査（ア～エ） ・資料4 子どもの生活に関するアンケート調査（ア～オ） ・資料5 子どもの生活に関するヒアリング調査 ・資料6 子育て支援ニーズ調査 配布用封筒 ・資料7 子どもの生活に関する実態調査 配布用封筒 ・調査票（案）及び封筒（案）に対する意見用紙	
会 議 録 方 針	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	<input checked="" type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後  か月
会議録の確認方法 部会長による確認		
そ の 他 の 必 要 事 項	傍聴人なし	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

【石田課長補佐】

開会前でございますが、委員の皆様にお諮りいたします。

本日の審議会の開催につきましては、「市政の情報提供及び審議会等の会議の公開に関する指針」により、本審議会は原則公開となっております。

皆様、この会議は公開としてよろしいでしょうか。

【各委員】

異議なし

【石田課長補佐】

特に御意見がなければ、本日の会議は公開といたします。

事務局は、傍聴希望者の確認を行い、希望者がいる場合は入室を許可してください。

【曾根田主任】

傍聴希望者はありません。

【石田課長補佐】

定刻となりましたので、ただいまから第2回朝霞市子ども・子育て支援事業計画部会を開催させていただきます。

本日、進行を務めさせていただきます、こども未来課の石田と申します。

どうぞよろしくお願いいたします。

朝霞市子ども・子育て会議条例第7条第2項の規定により、会議については、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができないとされております。

本日の出席委員は10名ですので、会議の成立要件である、部会員の定数13名の過半数の7名を満たしておりますので、会議は成立していることを御報告いたします。

本日、民間保育園保護者 田島委員と幼稚園保護者 鈴木委員が所用により欠席との連絡をいただいております。

議事に入ります前に、配布資料の確認をさせていただきます。

本日、配布いたしました資料として、次第、資料1から資料7、意見用紙、以上でございます。資料に不足がある方は挙手願います。

それでは、まず始めに計画策定にあたり支援事業者との契約が締結いたしました。つきましては、今回の部会から御出席いただきたいと考えておりますが、皆様、ご入室いただいてよろしいでしょうか。

【各委員】

異議なし

**【支援事業者入室】**

**【石田課長補佐】**

それでは、支援事業者の方々を紹介させていただきます。

株式会社 船井総合研究所の堀内様と銭様です。

今後、支援事業者の方々には、本会議及び部会に御出席いただくこととなりますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、次に嶋崎部会長より御挨拶をお願いいたします。

**【嶋崎部会長】**

(嶋崎部会長 御挨拶)

**【石田課長補佐】**

ありがとうございました。

それでは、これからの進行は、部会長をお願いしたいと存じます。

**【嶋崎部会長】**

それでは、議題1 第3期朝霞市子ども・子育て支援事業計画の策定に係るアンケート及びヒアリングの実施について、事務局から説明をお願いします。

**【永山係長】**

それでは、議題1についてこども未来課永山より説明させていただきます。

まず始めに、本日配布させていただきました資料につきまして、本来であれば会議1週間前までに送付させていただくところでしたが、会議前日まで資料の調整・確認を行っていたため、当日の配布となってしまい大変申し訳ございませんでした。

この後、議題1及び議題2で資料の説明をさせていただきますが、この会議中ではすべてについて細かく御確認いただくことは難しいかと思えます。資料の最後に意見用紙をつけさせていただいておりますので、御自宅に戻られてからお気づきになった点や御意見等を御記入いただき、後日こども未来課へ御提出いただければと思います。よろしくをお願いいたします。

それでは資料の説明に入らせていただきます。資料1を御覧ください。

まず、1 調査の目的についてですが、これまでの会議においても説明させていただいておりますが、令和2年度から5年間を計画期間とする第2期朝霞市子ども・子育て支援事業計画が令和6年度で終了することから、次期計画を策定するために子育て支援に関する課題やニーズなどを把握することを目的に実施をいたします。

次に、2 調査種別といたしまして、まず1つ目は教育・保育及び子育て施策全般に関する課題やニーズ等の把握調査となっており、アンケート調査票では子育て支援についてのアンケート調査の名称で記載しております。

2つ目は子どもの生活実態等(子どもの貧困を含む)の把握調査となっており、アンケート調査票ではこどもの生活に関するアンケート調査の名称で記載しております。

次に、3 調査方法の概要につままして説明いたします。

まず、2つの調査ともにアンケート調査とヒアリング調査を実施する予定となっております。

(1) 教育・保育及び子育て施策全般に関する課題やニーズ等の把握調査のアンケート調査につまましては、①対象者・配布件数に記載してあるとおおり

アとしまして、無作為抽出した就学前児童の保護者を約2000件

イとしまして、小学1年生から6年生までと中学1年生から2年生までの保護者を約1000件、ウとしまして、小学5年生から6年生までの児童を約350件、エとしまして、中学1年生から2年生までの生徒を約400件、オとしまして、高校1年生から2年生までの生徒を約160件、ウ～オまでを足すと910件となり、右側に記載してある約1000件と誤差が生じておりますが、各校のクラスの人数にはばらつきがあるため実際の調査件数は少し変わってくるかと思っておりますので、あくまでも目安としていただければと思います。

カとしまして、子育て支援関係施設及び障害児関係団体約50件を予定しております。

次に②調査方法ですが、一点修正がございます。一番下のカッコ内にウ、オと記載がありますが、ウ、エの誤りとなりますので修正をお願いいたします。

アとカにつまましては、郵送で配布・回収、イ～オにつまましては、各学校を通じて調査票を配布・回収の予定となっております。なお、ウとエにつまましては、GIGAスクールタブレットの活用を検討しておりますので、今後、教育委員会と調整をしております。

次のページをご覧ください。

ヒアリング調査につまましては、①対象者として、ア～エまでを予定しております。

アとしまして、小・中学生及び高校生を対象として、学校や児童館、朝霞の森、都市公園等で実施いたします。

イとしまして、児童館及び子育て支援センターを利用している保護者の方を対象として実施いたします。

ウとしまして、妊娠中の方を対象として、マタニティ教室に参加されている方と妊娠届出受付時に実施いたします。

エとしまして、その他の者として、子育て支援団体等に実施をいたします。

②調査方法としましては、学校や各施設において聞き取りを行うこととしております。※に記載しておりますが、学校では座談会方式による聞き取り、その他については個別インタビュー方式で聞き取りをする予定でおります。

次のページをご覧ください。

次に、(2) 子どもの生活実態等の把握調査のアンケート調査につまましては、①対象者・配布件数として、ア～オを予定しております。

アにつままして、小学5年生の児童を約1,000件、イにつままして、小学5年生の保護者を約1,000件、ウにつままして、中学2年生の生徒を約1,000件、エにつままして、中学2年生の保護者を約1000件、オにつままして、公的扶助受給世帯を約900件を予定しております。

なお、アとイ、ウとエは親子の紐づけができるように実施する予定となっております。

②調査方法としましては、ア～エについては各学校を通じて調査票を配布・回収いたします。先ほどのニーズ調査と同様に児童・生徒についてはG I G Aスクールタブレットの活用を検討しております。オにつきましては、郵送で配布・回収の予定となっております。

次に、ヒアリング調査ですが、一点修正がございます。カッコ内の子ども食堂が子どもの食堂となっておりますので、「の」の削除をお願いいたします。

①対象者として、子どもの貧困に関する支援団体に実施する予定となっており、具体的には、学習支援事業者や主任児童委員、子ども食堂などを予定しております。

②調査方法としましては、各事業実施場所などで聞き取りを実施する予定となっております。

次のページをご覧ください。

2種類の調査のスケジュールにつきまして説明いたします。

まずアンケート調査につきましては、

調査票の配布を令和5年12月下旬から令和6年1月上旬に予定しております。児童・生徒及び保護者につきましては、学校を通じて実施・配布いただく形としており、就学前児童の保護者及び公的扶助受給世帯については郵送する予定となっております。

回収につきましては、1月下旬を予定しており、児童・生徒及び保護者については学校を通じて回収する予定となっております。

次に、ヒアリング調査につきましては、1月中旬から2月上旬に各施設等において実施をする予定となっております。

なお、スケジュールの全体像につきましては、事業者と調整中ですので、確定しましたら皆様にお示しできればと思っております。

議題1の説明につきましては、以上です。

#### 【嶋崎部会長】

ただ今、事務局から説明をいただきました。

この件につきまして、御質問はございますか。

#### 【本田委員】

子どもの生活実態調査についてですが、小学5年生と中学校2年生の生徒さんに学校を通じて調査するとございますが、無作為抽出にしなかった理由と偏りが出ないか、どのように判断されているかを伺いたいと思います。

#### 【高橋課長】

無作為抽出にしなかった理由としては、G I G Aスクール端末が配られていることから皆様同様に実施いただけるのではないかと考えております。また学校経由とした経緯としては、調査を校長会でお願いをすることになるのですが、その前段階といたしまして校長研究協議会という場で、具体的に説明できる場面がございます。調査の趣旨などをお話させていただいて、生徒さんが理解した上で、この調査に取り組んでいただけるようにできるのではないかとということで、今回全生徒の対象としております。

**【本田委員】**

学校で説明を行うことでバイアスがかかり、回答がぶれてしまうのではないのでしょうか。また、子ども同士で話しながら進めると、回答が偏ってしまうのではないかと感じております。無作為抽出で郵送するよりも回答は集まるように感じますが、あまりにも偏りが出た場合には、考慮する必要があるように感じます。

**【喜多委員】**

ヒアリング調査に関して質問です。例えば児童館および子育て支援センターの利用者であれば、調査する日に施設を利用されていた方にヒアリングを依頼するのでしょうか。または、施設の方から協力してくださりそうな方に前もって依頼をしていただくかで、だいぶ違うかと思えます。

**【高橋課長】**

前任者に、前回ほどどのように実施したかお伺いしたところ、事前にいつ市の職員が訪問するかをお伝えした上で、事前に利用者を集めておいていただくことは難しいため、当日集まっていた方にお声がけして依頼していく形となります。

ただ、先日この意見表明ということ強化できないかということで、社会福祉協議会の協力のもと、こども未来課が所管している児童館で、事前にチラシやインターネットで告知を行って集まっていた方式を、試行することといたしました。

児童館での試行がうまくいった際には、展開していくことを検討しております。時間が無い中で、より広く意見を取っていただくという中で、基本的には座談会方式で意見を聴取していくことを考えております。

**【嶋崎部会長】**

第2期の際にもヒアリングを実施いただいているかと思いますが、サンプルの設定やサンプル数を増やしたなど違いはありますか。

**【高橋課長】**

ヒアリングは、基本的に前回の内容を踏襲しておりますが、委員の皆様からも意見を伺いながら反映していければと考えております。

**【本田委員】**

アンケート調査の内容やサンプルは変わらないということでしょうか。

**【永山係長】**

前回と比較しまして変わったところで申し上げますと、前回アンケート調査では、中学生と高校生のみだったところを、今回小学生の方も追加しております。それ以外に関しましては、子育て施設職員や障害者関係団体、妊娠中の方につきましても変更はございません。

**【本田委員】**

療育に通っていらっしゃる方にも配布されることを踏まえて、アンケート内容へ反映できるとよいのではないのでしょうか。

**【高橋課長】**

内容に関しては、これ以降の議論で行えればと思います。

**【喜多委員】**

私は、多文化子育ての会を運営しているのですが、朝霞市では平成2年時点で外国人の割合が2.9%いらっしゃり、日本語を読める方もいる一方で、日本語を全く読めない方もいらっしゃるかと思いますがどのようにお考えでしょうか？

**【高橋課長】**

ヒアリング調査に関しては、ばんびーに様にもご協力いただきまして、翻訳していただいたりしながら外国の世代の方が悩んでいらっしゃることでとか、必要なことを探っていきたいため、ぜひともご協力お願いできればと考えております。

**【喜多委員】**

通訳できる人はおりませんので、この量のアンケートを本気で取りたいということであれば、通訳できる方をお願いした方がよいかと思えます。

**【高橋課長】**

ヒアリングは会話形式の中で行うため、事前に市の多文化推進サポーターの方にも協力を募りたいと考えております。

**【神部委員】**

子どもの生活実態調査について、対象が小学生5年生と中学2年生、その保護者となっておりますが、サンプルということで絞られたのか、過年度との比較のためなのかというところをお聞きしたいです。また、保護者とその子どもということで、親子であることを参考にするのでしょうか。

**【永山係長】**

こちらの小学年5年生と中学2年生というのは前回と同じ対象となりますので、ある程度前回との比較もしやすいのかなと思います。また、親子間の紐づけを行い、同じ家庭での状況を見ることとなります。



**【嶋崎部会長】**

質疑等がないようであれば、議題1を終結し、次の議題に進みたいと思います。

次に、議題2 第3期朝霞市子ども・子育て支援事業計画の策定に係るアンケート及びヒアリングの調査票（案）について、事務局より説明をお願いします。

**【永山係長】**

それでは、議題2につきまして、説明させていただきます。

まず、国から令和5年9月20日付で「第3期市町村子ども・子育て支援事業計画等における「量の見込み」の算出等の考え方」の通知があり、その中では、第1期の計画作成にあたって示した手引きをベースとしつつ、第2期手引きを改訂する形で、自治体の実情に応じて、これまでどおり第1期手引きの内容をベースに対応可能であることが示しながらも、直近の議論や状況等を踏まえた諸般の改正や自治体の実情に応じて柔軟に対応が可能である点などを示した、第3期手引きが提示されております。

今回の調査票（案）につきましては、前回の調査票をベースとしつつ今回の手引きを勘案し、関係各課及び事業者で内容を検討、修正・追加を行った内容となっております。本日は事業者より調査票（案）の修正・追加箇所等について説明をさせていただき、委員の皆様から忌憚のない御意見をいただければと思っております。

また、調査に使用する封筒についても（案）ができあがっておりますので、調査票（案）と合わせて本日の会議で御検討をお願いできればと思っております。

なお、本日の会議でいただいた御意見と、議題1で説明いたしました意見用紙に御記入いただいた内容を踏まえまして、調査票（案）等を再度作成し、第3回子ども・子育て会議でご検討いただいた後、調査票を確定する予定でおります。

調査票等の種類が多くなっておりますので、種類ごとに説明と検討を繰り返す形で進めさせていただきます。

なお、担当課名や電話番号など、内容が確定している箇所の誤りにつきましては、事務局で修正いたしますので、御検討いただかなくて大丈夫です。

それでは、船井総合研究所様、よろしく願いいたします。

**【船井総合研究所 堀内氏】**

それでは、資料2アをご覧ください。冒頭に説明がございました通り、基本的には前回の調査内容を引き継いでおります。修正点に関しては、白文字の黒マーカで記載しております。前回の調査では、約24ページ程だったのですが、今回29ページと増えており、設問数が増えたことで回答率が下がってしまう可能性もあるため、中には削除できない設問もございますが、委員の皆様より設問の要否など、内容に関しては御意見頂戴できればと思っております。

では、早速アンケート内容の説明をさせていただきます。今回より、回収率の向上を目的として、WEBからの回答も可能なよう変更いたしました。あいさつ文に、WEB回答も可能なようにQRコードとURLを掲載いたしました。

P2用語の定義に関して。子育て支援センター、ファミリー・サポート・センター、病児病後児保育施設を追加いたしました。

問4：「朝霞市パートナーシップ・ファミリーシップ制度」に基づくパートナーも含むことを

補足いたしました。

問6：未就学児の場合、「学区」は分からないかと思われるので、「地区」へ変更しております。また 未就学児・小学生・中学生を比較分析するためすべての調査票で「学区」ではなく「地区」を問う形へ変更いたしました。

問8：前回調査と同じなのですが、選択肢に「児童館、子育て支援センター、子育てサークル等はあらかじめ記載しないのか」という意見を頂戴しているため、選択肢を再検討すべきかご意見をいただきたく存じます。

問9：祖父母との同居・別居を問う設問を追加いたしました。9-2、9-3では、経済的負担について問う選択肢を追加いたしました。

問15：15-1の選択肢1～6，9～12については国の指針に沿った選択肢へ、7. 企業主導型保育施設と、8. 家庭保育室は独自で追加いたしました。

問16：選択肢の考え方は15-1と基本的に同じ、こども家庭庁に関する選択肢を追加いたしました。16-4に、送迎ステーションがあれば、という選択肢を追加いたしました。

問17：17-1に、こども誰でも通園制度の普及を見据えて、利用希望と、費用感に関する設問を追加いたしました。

問23：23-2に、土曜日の保育利用に関するニーズを踏まえて、設問を追加いたしました。

問25：25-6の設問を見直し、「仕事を休んで看ることができない（できなかつた）理由」を問う設問へ修正いたしました。

問27：第3期 量の見込みの考え方を踏まえて、「保護者や家族の育児疲れ・不安」の選択肢を追加いたしました。

問38～41：「すべてのこども・子育て世帯を切れ目ない支援」を実現していくために、妊娠期や産後の悩み等を問う設問を追加いたしました。

問42・43：「希望する誰もが、希望するこども数を持ち、安心して子育てができる社会」を実現していくために、希望するこども数と現実に持つと思われるこども数、またその理由、経済的な懸念であれば具体的に希望する貯金額や収入額を問う設問を追加いたしました。

問54：子育て支援に関するワンストップ窓口のニーズを問う設問を追加いたしました。

先ほど、療育施設に関するお話が先ほどありましたが、「障害児福祉計画」策定時に障害児通所支援利用児童の保護者に別途アンケートを実施しているため、今回は不要ではないかと考えています。また、家事援助に関する設問は、市として家事援助に係るサービスを検討していく方針であれば、有効な設問と考えます。

資料2イに関してですが、問18、問18-1で、放課後こども教室の利用ニーズを問う設問を追加した以外は、基本的には前回の調査を踏襲しております。

#### 【嶋崎部会長】

ただ今、事務局及び事業者から説明をいただきました。

この件につきまして、御質問はございますか。

#### 【川合委員】

基本的な質問となりますが、選択肢の中のお住まいに「市外」とありますが、市外の方へアンケートは行うのでしょうか。

**【永山係長】**

数としては少ないですが、無作為抽出でアンケート配送後に転出された方を想定して選択肢にございます。

**【喜多委員】**

今の市外のところで、先ほどの対象のところに話が戻ってしまうんですけど、高校生の場合、対象にする高校によっては、市外から来ている方が多いのではと思ってしまったのですが。朝霞市外に住んでいる高校生にもアンケートを実施するという認識で正しいでしょうか？

**【永山係長】**

朝霞高校と朝霞西高校に通われている方へ学校を通して調査を依頼予定のため、市外の方にアンケートを行うということは御認識の通りです。

**【喜多委員】**

市外の方も対象になるのはどうなのでしょう。

**【高橋課長】**

どの割合の方が市内、市外かということが分からず、朝霞市にお住まいの方だけに、このアンケートお願いしますというお願いの仕方が難しいのかなど。お住まいの方はもちろんのこと、朝霞市に通学されている方に関してもご意見をいただければと思っておりますが、御意見いただきたく存じます。前回もそのような観点で話はあったかと思いますが、市内の方だけを抽出するという意見もあるかと思いますが、私としては広く意見を抽出できればと思っております。

説明前の内容に入り込んでおりますので、資料2ウの内容に進んでもよろしいでしょうか？

**【全員】**

異議なし

**【船井総合研究所 堀内氏】**

それでは、資料2ウ・エ・オを御準備いただけますでしょうか。こちらの資料に関しても、昨年度の資料をベースに作成しております。

大きな変更箇所としては、問14～16でこども未来戦略方針にて「授業料等減免」が検討されていることから、その影響を問う設問を追加しております。先ほどの議論でございましたが、児童館の利用状況に関して問う設問があり、高校生も利用されるかと思うので、我々の方で修正も可能でございますので御議論いただければというように思います。

**【嶋崎部会長】**

この件につきまして、御質問はございますか。

**【獅子倉委員】**

小中高生本人対象となっているアンケートであるが、問1の選択肢に「職業に就いている」というのこういった解釈でしょうか。

**【永山係長】**

そうですね、申し訳ございません。9・10・11は選択肢としては想定がありませんので、こちらの方は削除させていただきます。それと、受験のシーズンなので高校3年生は、調査に入れませんので8・9・10・11削除で修正させていただきたいと思います。

**【高橋課長】**

朝霞高校は、定時制高校があるため、前回の調査では実施していないが、校長先生に御協力いただけるようであれば、調査対象としてまいりたい。

**【獅子倉委員】**

その場合、「○は1つ」という表現も変更いただく必要があるかと思います。

**【高橋課長】**

○のつけ方も何か仕事をされているということも非常に重要な選択肢じゃないかなと思いますので、表現は検討させてください。また朝霞高校さんの他の協力次第という分もございますので、次の会議までに修正してまいります。

**【嶋崎部会長】**

前回も同じような形で質問してるんですね。朝霞市外在住の高校生も回答すると。先ほど、喜多委員が仰っていた件に関して、朝霞市在住の方だけにアンケートを取ることが原理原則じゃないかということですかね。

**【喜多委員】**

年齢でアンケートの送付も可能かと思うが、高校生は郵送すると回収率は下がってしまいそう。それよりはLINEの方が回答はしやすいのではないかな。

**【船井総合研究所 堀内氏】**

LINEを活用した実績はないのですが、懸念点として挙がってくるのは、朝霞市在住かどうか判断できないかと思います。URLを広げられてしまっていて、どなたが回答したか分からなくなってしまうリスクもあるかと思います。

**【喜多委員】**

朝霞市在住の年齢で考えて対象を絞るか、仕事をしている方、専門学校などもありますし、ただ方法を考えるのが難しいというのはあるので、なんとも言えないのですが。

**【高橋課長】**

例えばなのですが、年齢で抽出した場合、高校もかなりバラバラになってしまうのかなという部分もあります。朝霞市にお住まい、また高校自体が市内にあって、市を跨いでほんちょう

児童館などを常日頃利用していただける方も含みますが、実情に即した形で御回答いただけるのではないかとということで、現時点は考えております。年齢で抽出してアンケートを展開した場合、越境留学や県外に通われているなども想定されるかと思いますがいかがでしょうか。

**【本田委員】**

そのお話からも、より朝霞市在住の方の実態がみえてくるように感じます。遠くの高校に行っているということは当たり前ですし、ほんちょう児童館の使われ方も、実態的には思ったより少ない、本当は使いたいけど使えないなど、そういったところが見えてくるんじゃないかと思います。本来であれば、対象の年齢で無作為抽出した方がサンプルに偏りが出ないのではないかと思います。QRコードをつけて、ネットでも回答できるようになど。働いている子もいれば、いろんな子がいると思うんです。なので、その実態が分かった方が良いでしょうね。

そう考えると、今気がつきましたけど、「お仕事楽しいですか」など。現在、放課後しか選択肢がなく、仕事が終わった後なども聞けないかと。

**【高橋課長】**

無作為抽出とした場合、事業者との契約や予算との兼ね合いもあり可能かどうかは検討させていただき、次回回答させていただきます。

**【嶋崎部会長】**

他に御質問ございますでしょうか。

**【神部委員】**

問16について。奨学金の利用についての質問があるかと思いますが、唐突にお金のお話が出てくるところが気になります。

**【船井総合研究所 堀内氏】**

先ほどの説明と重複してしまう部分もあるのですが、こども未来戦略方針で授業料等の減免の話が挙がっており、そのニーズがあるかを聞くためとなっております。確かに、急にお金のお話が出てきておりますが、背景としてはそういったこととなります。

**【神部委員】**

無回答でも構わないのでしょうか。

**【船井総合研究所 堀内氏】**

無回答でも構いません。皆さんが進学したいという意思を持っているわけではないと思っています。

**【嶋崎部会長】**

他に御質問無いようであれば、次の資料に移りたいと思います。

**【船井総合研究所 堀内氏】**

それでは、資料の資料2カをご覧ください。子育て支援関係施設職員向けのアンケートで、前回の調査を引き継いでおります。変更点としては、1枚目の施設分類のチェック項目を追加しているのみで、その他は前回内容から変更ございません。

**【嶋崎部会長】**

基本的に前回のものを踏襲しているとのことですね。  
質問ございませんか。

**【本田委員】**

障害児関係団体へのアンケートで、P2の間3「ふだん、障害に関することで悩みがある場合、どのような対応をとられることが多いですか」に関しては、団体職員への質問かと思いますが答えづらいのではないのでしょうか。団体に聞くような内容ではなく、違和感があります。何を聞きたいのか意図がみえないのですがいかがでしょうか。

**【嶋崎部会長】**

施設関係職員として答えにくいということですね。

**【船井総合研究所 堀内氏】**

主語を加えればわかりやすくなりますかね。

**【本田委員】**

そもそも、何を聞きたいのかという意図がみえてこないですね。

**【船井総合研究所 堀内氏】**

趣旨を明確にし、設問の必要性があるのかなのか、誰に何を聞きたいのかということを再度精査させていただきます。

**【嶋崎部会長】**

前回も同様の調査をしているのですよね。

**【高橋課長】**

前回調査結果が、この設問に対してすっぱり抜けております。基本的には、関係職員への内容となります。引き続き検討してまいります。

**【嶋崎部会長】**

それでは、よろしく願いいたします。

**【獅子倉委員】**

子育て支援関係施設及び障害児関係団体への調査ですが、件数が50件となっております

が、団体の数でしょうか？それとも職員の数でしょうか。

**【永山係長】**

団体の数となります。1施設から1回答を得る形となります。

**【獅子倉委員】**

団体によって、職員の数異なります、その差によって偏りが出てくるかと思いますがどのようにお考えでしょうか。

**【永山係長】**

バランスを取りながら実施していく予定です。

**【嶋崎部会長】**

それでは、次の資料に移りたいと思います。事務局より説明をお願い致します。

**【船井総合研究所 堀内氏】**

資料3アをご覧ください。学校（中、高校生）向けの内容では、修正点・変更点は2箇所ございます。1つ目は、問2。令和元年10月にほんちょう児童館が開館したことに伴い、設問へ新たに追加いたしました。2つ目は、問6。朝霞市での子育ての希望を取ることを目的に、設問を追加いたしました。それ以外は前回と同じ内容となっております。

また、放課後児童クラブ、朝霞の森、都市公園を対象とした設問では、「ふだんの生活で困っていること」を新たに項目として追加しております。こちらの資料に関しては以上が主な変更点となります。

**【安孫子委員】**

放課後児童クラブに関してですが、どういう希望で行かれているか、親御さんの意向なのか、そもそも行きたいと感じているかなど、そのような質問があると良いかと思えます

**【高橋課長】**

その部分に関しては、事業者と調整させていただきます。そもそも子どもとしては行きたくないという意見もあるかもしれないということで、ヒアリングに関してはいかようにでも加えられるかと思えます。

**【嶋崎部会長】**

その他いかがでしょうか。

それでは次の資料の説明をお願い致します。

**【船井総合研究所 堀内氏】**

資料3イについて説明させていただきます。

児童館・子育て支援センター利用者（保護者）に対するヒアリング内容となります。

変更点としては、主に2つで新たに問4・問5を追加いたしました。問4に関しては、子育

てについて相談する場所があるかという設問を追加いたしました。問5に関しては、困っていることも聞くべきということで、設問を追加いたしました。以上でございます。

**【嶋崎部会長】**

何か御質問ございますか。

**【本田委員】**

問4で、そもそも子育てに関する相談は、家族が上がってくるかと思いますが、あえて児童館や子育て支援センターで相談をするのであれば、どのようなことを相談したいかと聞くのが良いかと思いましたがいかがでしょうか。

**【船井総合研究所 堀内氏】**

検討させていただければと思います。

**【嶋崎部会長】**

よろしいでしょうか。それでは次の資料の説明をお願い致します。

**【船井総合研究所 堀内氏】**

資料3ウ マタニティ教室と妊娠届出受付時2つの資料があるかと思います。

まず妊娠届出受付時に関してですが、変更点は2点ございます。問8で、出産や子育てに関する相談先として子育て支援センターを、相談先・情報源としてSNSを追加しております。次に問12に関してですが、育休取得予定がない方向けに、その理由を問う設問を追加しております。選択肢は子育て支援ニーズ調査を参照しています。

次にマタニティ教室利用者への調査です。設問は基本的に前回調査票と同様ですが、マタニティ教室後すぐに回答いただけるよう、選択式の設問を中心とした調査票に大幅修正しております。

**【本田委員】**

マタニティ教室の参加者も妊娠届出受付時の参加者さんも産前の方ってことですよね。ただあえてマタニティ教室参加者にも聞くっていうことにした理由っていうのをお聞きしたいのと、あとそのアンケートが異なってる理由っていうのをお聞きしたいなと思うんですけどいかがでしょうか。

**【高橋課長】**

この部分に関しては、前回、妊娠届出受付時やマタニティ教室の調査実施の中で、アンケートだけでなく、実際に現場に行って市民の方の声を聞いたらよいのではないか、という委員さんのご意見の中で急遽行った部分がございます。ただ本当におっしゃる通り、これは産前の分かと思うんですけど、健康づくり課などに聞いて、例えば産後に関しても増やせるようであれば増やしたいと考えております。

**【本田委員】**



むしろ整理した方がいいんじゃないかと思います。妊娠届出受付時の方が網羅的に聞いていると思うんですね。だけど、妊娠届出受付時というのは妊娠が分かったばかり、3ヵ月程度で産後の生活があまり想像できていない時。マタニティ教室では、もう少し想像がついている頃になるので回答が違ってくるかと思います。そのような目的であれば良いかと思いますが、聞いていることが重なっていたり違っていたりするから、整理して手間は増やさなくていいのではないかと思います。何の調査をするかが大事なかなと思っていて、お子さんを出産される方用の妊娠届出受付時の方は、どちらかというとサービスに対するニーズ調査みたいなものの方に重きが置かれてるかなと思うんですよ。保育所に入りたいかとか。一方でマタニティ教室の方で聞く話が、子育て支援策の方向性、どのようなことをやってほしいかという話が多いように思うんです。何か目標を定めて内容を整理して、マタニティ教室で、そういうこと聞くって決めちゃって聞いてもいいかなと。逆にアンケートじゃなくてこちらもヒアリングで、集まってくれた人にちょっと話を聞くというのでも良いかと思います。検討、整理した方が良いと思います。

**【高橋課長】**

健康づくり課と調整をした次第なのですが、今後、マタニティ教室の方はインタビュー形式などできるような方策を探してみたいと思います。

**【喜多委員】**

同じような話になるのですが、マタニティ教室の方に関して、朝霞市は転入・転出が多いため、転入してくださった方からお話が聞けるのではないかと思うので、内容を再度整理された方が良いかと思います

**【嶋崎部会長】**

整理をしていただきたい。選択と集中があった方が良いですね。  
それでは次の資料の説明をお願い致します。

**【船井総合研究所 堀内氏】**

それでは、資料3エをご覧ください。項目の修正点は1箇所となります。  
先ほどと同様、問5で困っていることを問う設問を新たに追加しているのみで、他は前回と同様となります。以上です。

**【嶋崎部会長】**

よろしいでしょうか。それでは資料4へ移行したいと思います。

**【船井総合研究所 堀内氏】**

それでは、資料4 こどもの生活に関するアンケートへ移りたいと思います。  
資料4イ・エ（保護者対象）に関しては、前回調査と変更ございません。  
資料4ア・ウに関して、御説明させていただきます。変更点主に2点となります。問2～4の項目で、選択肢に放課後児童クラブを追加いたしました。問11で中学生票にはあったが小学生票に含まれていなかった、「ネット上で知り合った友達」を選択肢へ新たに追加いたしま

した。

先ほどお話にもあがっておりましたが、保護者と子どもの回答を突き合わせて集計していきます。以上となります。

**【本田委員】**

特別支援学級に在籍の方にも配るんですね。また特別支援学校に通っている方にも配るんですね。

**【高橋課長】**

前回調査では、調査を行っていなかった部分であるのですが、今回は対象とできるよう調整したいと思います。

**【本田委員】**

絶対に入れて欲しいと思います。そう考えたときに、放課後等デイサービスとか選択肢に入れておかないと入っていないので入れた方がいいですね。特別学級とか学校のお子さんだと、デイサービスに行っている子もいると思うので。

**【高橋課長】**

問2の部分ですね。

**【船井総合研究所 堀内氏】**

追加は問題ないかと思います。

**【吉村委員】**

このアンケート自体は、子どもたちの虐待とかそういうものを調査するような意図という認識で大丈夫ですか。

**【永山係長】**

子どもの貧困対策策定にあたっての調査となります。

**【吉村委員】**

多分今でも意見があったのかなと思うんですが、問17など私は、ちょっとどうか、子どもが回答につまるように感じます。これを聞くことで実態がわかるのであればいいのかなと思うが、ちょうど私の子どもが小学校高学年の女の子なので、これを見たときに、なんでこんなこと聞かれるんだろうって思うのかなと感じました。いろいろな理由があって入れている項目で大事なのであれば、良いかとは思いますが。

**【高橋課長】**

本項目に関しては、お聞きできればというように思っております。前回の調査でも衣服が買えないといった項目で、貧困状態であると認識した部分ございます。非常に配慮が必要な点ということは理解しておりますが、入れさせていただければと思っています。

**【嶋崎部会長】**

必要なものかもしれないですね。  
それでは、資料5について御説明をお願いいたします。

**【船井総合研究所 堀内氏】**

ヒアリングのフロー案となっております。前回から変更なしとなっております。以上です。

**【嶋崎部会長】**

よろしいでしょうか。それでは資料6、7について説明をお願いいたします。

**【船井総合研究所 堀内氏】**

資料6、7に関してですが、送付用の郵送用封筒のデザインとなります。  
資料6に関しては、締切日を大きく明記、他の自治体のケースも参考に、大切なアンケートであることを記載し、回収率をあげたいと考えております。学校回収のアンケートに関しては、「学校の担任の先生にご提出ください」という記載をしております。

**【嶋崎部会長】**

質疑等がないようであれば、議題2を終結し、次の議題に進みたいと思います。  
次に、議題3 その他について、事務局から何かございますか。

**【永山係長】**

第3回子ども・子育て会議の日程につきましては、11月下旬から12月上旬で調整をしております。日程が決まりましたら通知をさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

**【嶋崎部会長】**

以上で議題はすべて終わりましたが、最後に、全体を通して何か、御意見、御質問はございますか。

**【喜多委員】**

こどもの生活実態調査の件に関してだが、スマートフォンを所持していない学生もいるかと思うため、余裕がない御家庭でも回答いただける形が良いかと思っております。

**【永山係長】**

回答に関しては、調査票に直接記入いただく形も可能であるため、スマートフォンを持っていない場合でも回答可能となります。

**【嶋崎部会長】**

それでは、御質問がないようですので、終了させていただきます。

以上で議題内容はすべて終わりましたが、最後に、本会議の議事録等の手続につきましては、部会長に御一任いただきたく存じますのでよろしくお願いいたします。

これで、議長の座をおろさせていただきます。

スムーズな進行に御協力いただきありがとうございました。

**【石田課長補佐】**

ありがとうございました。

また、委員の皆様におかれましても、長時間の御審議ありがとうございました。

以上で第2回朝霞市子ども・子育て支援事業計画部会を終了いたします。